

FFGのお取引先企業をご紹介します。

福岡造船 株式会社

代表取締役社長 田中 敬二氏

取引店 福岡銀行 本店営業部



松石電設工業 株式会社

代表取締役 松石 六雄氏

取引店 親和銀行 浜町支店



福岡造船 株式会社

代表取締役社長

田中 敬二氏

設立：1947年11月

所在地：(本社・福岡工場) 福岡市中央区港3 3 14

(長崎工場) 長崎市深堀町1 1 4

(東京事務所) 東京都中央区京橋3 9 2 宝国ビル6F

資本金：96百万円

従業員：約800名(社員・協力会社員を併せて)

事業内容：船舶の新造



博多港に面する 福岡県内最大の造船所

設立は1947年11月(昭和22年)。今年、設立六十二年目を迎える当社(本社・福岡工場)は、福岡の海の玄関口である博多港に面しており、福岡市の中心部に位置しています。

以前は「漁船」を中心とした建造を行っていましたが、徐々に付加価値の高い「商船」へと転換し、現在では中型「ケミカルタンカー」専門の造船所としての地位を固めてきました。2004年3月(平成16年)には、長崎の長栄造船株式会社の設備を譲り受け、当社の長崎工場としてスタートしました。

かつては、本社・福岡工場のある福岡市中央区港の周辺に4つほどあった造船所も、オイルショックや造船不況を背景に、現在では当社だけとなりました。生き残りを掛けた中型「ケミカルタンカー」への転換が、結果的にはほかの会社がやらないニッチな市場

に特化したことで、今では当社の強みとなっています。

「ケミカルタンカー」 専門の造船所として、 技術力は世界トップ水準

近年の「海運市場」はBRICSをはじめとする新興国の成長を背景に空前の造船ブームを迎えました。しかし、昨年秋口からの世界同時危機の発生により、足元の「海運市場」は変調をきたしています。当社の受注環境も例外ではありませんが、当面の受注は確保しており、お陰様で現在でも高い操業が維持できています。

当社が建造している「ケミカルタンカー」は、ナフサ、硫酸といった油精製物や化学薬品を専門に運ぶ専用船であり、特に中国での石油精製品の取扱いの増加を追い風として、今後も需要は伸びていくと期待しています。しかし、「ケミカルタンカー」の建造は他の商船とは違い、さびにくいステンレスを多く使用することから、建造にはより高度な技術が必要とされています。特に、ステンレス部分は、パイプや仕切りなど細かな設備を取り付ける溶接箇所が多く、またステンレスは熱からの影響を

受けやすい特質を持つため、溶接には高い技術力が必要とされています。また最近では、鋼材やステンレスなどの価格変動も大きいことから、「ケミカルタンカー」の建造には高い技術力に加え、資材調達や原価の調整においても経営努力が必要な要素となっています。

技術力の背景には 熟練工の“匠の技”

高い技術力を要する「ケミカルタンカー」の建造は、ステンレスの溶接技術だけではありません。様々な場面で、熟練した技術が不可欠となっています。船は複雑な曲面で構成されていますので、材料の鋼板やステンレス板など、平面体を曲面や立体に曲げていく作業が必要となります。厚さ20mm前後もある鋼板の強度を失わない様に、何度もプレス機で押し曲げたり、ガスバーナーで表面を熱したり、水で冷やしたりして曲げ型に合うように少しずつ丁寧に曲げて行きます。

特に外板の滑らかな曲面を熱加工によって曲げる作業は、大部分が職人による手作業で行われており、職人の長年の経験とカンが頼りになる“匠の技”と言えます。

この作業は機械化することが難しく、作業ができる従業員は、社内でも十人にも満たない人数によって支えられています。“一人前になるまでは最低でも十年はかかる”と言われる作業であり、まさに“巧みの技”が支えているのです。先達から受け継いだ技術を伝承すべく、日々人材の育成を行っています。

高付加価値船に特化、 新たな課題にチャレンジ

造船業界は景気の波が大きく、平成に入ってから国内の景気は戦後最悪の不況に見舞われ、重厚長大産業としての造船業界もまた、大きな痛手を被っていました。しかし、中国をはじめとするアジア経済の発展を迎え、当社が長年培った技術力・開発力を活かし、高付加価値船を多く手がけたことによって、世界的な造船不況から

いち早く脱出することができました。

現在では、福岡工場と長崎工場を併せ、年間に約10隻のペースで新造船を進水させています。多くの方々に進水の場面をご覧いただけるよう、地域の皆様にも開放した「進水式」を行っています。

地道な建造作業の集大成としての「進水式」は何度見てもいいものです。華やかな「進水式」の影には、たくさんの従業員の想いが詰まっており、夢と希望を載せた新船の門出に相応しいセレモニーとして最高の瞬間になっています。

これから先も技術力向上に努め、また、世界の経済動向を多角的に見つめることによって、新たな課題に果敢にチャレンジし、世界の発展に寄与する所存でいます。当社の羅針盤はいつも進むべき航路を指していけるよう、日々努力を続けています。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

変化の激しい造船業界の中で、当社が長年にわたり続けてきた“経営努力”は、今日の安定した業績に受け継がれているものとお察しいたします。従業員の皆様方の“知恵”と“技術”が詰った当社の「ケミカルタンカー」は、国内はもとより世界各国で、高い評価を受けています。これからも、確かな技術力を持つ当社が、世界でのプレゼンスを更に高めていくことを期待いたします。



本社・福岡工場



工場視察



進水式を迎えるケミカルタンカー



新設の塗装工場



進水式前の工場視察



進水風景

松石電設工業 株式会社

代表取締役

松石 六雄氏

設立：1959年12月

所在地：(本 社) 長崎市神ノ島町1丁目358
(ソーラテック工場) 諫早市津久葉町6 13

資本金：20百万円

従業員：107名

事業内容：太陽電池パネルの組立・設置、太陽光発電システム
精密機器分解組立工事、架設整備工事、船舶電気艦装工事
電気計装工事船舶電気艦装技術をベースとした
実績で信頼を確立

当社は、父である松石茂が、三菱重工業株式会社長崎造船所の協力会社として、1959年(昭和34年)に設立しました。今年、設立50周年を迎えることができました。これもひとえに三菱重工業株式会社をはじめ、お世話になった皆様方のお陰と感謝しています。

当初は新造船や修繕船などの船舶電気艦装部門を請け負い、電路の配線取付や結線テスト調整のほか電気パネルの取り付け工事などを行っていました。また、造船所内での作業に必要な電気や照明灯、エアー設備などの架設工事や、整備、保守点検も行うようになりました。

その後、事業拡大などに伴い1981年(昭和56年)に長崎市神ノ島

町に本社工場を建設した後、様々な事業実績を積み重ねていくなかで、三菱重工業での太陽光発電の研究開発にも携わって行きました。

こうして、現在では、「太陽電池発電事業部」、「太陽電池部」、「特機部」、「造船部」の4つの事業部で運営を行っています。

三菱重工業での量産化とともに
次世代太陽電池パネルの組立・
生産を開始

三菱重工業株式会社長崎造船所が次世代太陽電池の量産を開始するとともに、当社は2000年(平成12年)に生産段階から人を派遣し、太陽電池パネルの組立・生産を始めました。2008年には業容拡大に対応するため、パネル組立用のソーラテック工場を諫早市に取得し、現在は、太陽電池パネルの組立・保管に加えて、更に太陽電池の発電設備の設計、施工、関連資材・機材の販売までを行っています。この事業に大きく関わり参画できるようになったのは、三菱重

工業の要請に応じて当社が早い段階から太陽光発電の開発に携わってきたことなどが、決め手となったと感じています。

発電設備の設置工事においても既に多くの実績を重ねており、三菱重工業諫早太陽電池パネル工場の屋根への、「微結晶タンデム型」太陽電池500KW・800KW設置は九州でも最大規模であり、当社の施工技術の高さが証明されたものと自負しています。

今後のソーラテック工場での更なる生産増加に備え、同工場の改築にも着手しました。また、パネルガラスなどの新たな加工分野についても引き合いがきている状況にあり、さらに独自技術とノウハウを磨き、より総合的な生産協力会社、ビジネスパートナーとしての期待に、しっかりと応えていきたいと考えています。

“ソーラ・テクノロジー分野”で
新たな事業開拓を目指す

当社がこれまで企業として存続

してこられたのは、創業当初からの造船部門の“歴史と実績”、そして防衛関連機器などで創り上げることができた“信頼と安定”によるものです。

これからは、これら2つの事業分野を更に維持・発展させつつ、太陽光発電分野を“太陽熱”も含めた“ソーラ・テクノロジー”分野として位置付け、積極的に取り組んで参ります。新しい事業分野を開拓する上では、従来からの営業努力に加えて、新たな営業構造づくりや新規事業の進出等を模索する必要があります。そのために、「新規事業や商材開発のための調査・研究機能」や、「新たな提携先、事業パートナーに対する営業開発機能」の強化に向けた体制づくりや人材育成に取り組み、真に創造的で自立した企業を目指して

参ります。

事業領域は広がっても

松石電設の“文化”は変わらない

会社創立当初からある「造船部」に、「特機部」や「太陽電池部」、「太陽電池発電事業部」が加わり、事業領域は大きく広がりました。各事業によって目指すべき姿や形は当然違ってきますが、当社では従来から「環境の変化に適応し、常に前向きの発想を持つ」、「自ら企画し、率先して行動を起こす」、「誠実を旨とし、感謝と調和を重んじる」の3つを社訓と定め、行動規範としてきました。社訓として掲げてきたこれらの行動規範を当社共通の“文化”として再認識し、変わらぬ姿勢で今後もこれを継承し、実践していきたいと考えます。



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫

船舶の電気艦装で培われた技術をベースに防衛機器関連分野へ進出され、これまで築かれてきた信頼関係や実績により、太陽電池というこれからの時代をリードする分野への参入を果たされました。まさに、社訓である「環境の変化に適応し、常に前向きの発想を持つ」を実践してこられたことがわかります。

太陽光発電は重要な新エネルギーの一つとして、世界的に最も期待されている分野であり、これからのさらなるご発展を期待しています。



三菱重工諫早太陽電池工場の屋根に設置された太陽電池(500KW・800KW)



長崎市木鉢に設置された微結晶タンデム型太陽電池(8KW)



ソーラパネル組立作業



組立て中のソーラパネル



ソーラテック工場の前で、左から鬼木頭取、松石社長、宮崎支店長